

サンポート高松

高松港頭地区（サンポート高松）総合整備事業は、旧国鉄連絡船の廃止に伴う跡地を核とした約 42ha の区域で、新しい都市拠点を目指して国、香川県、高松市及び民間が一体的に進めた都市再開発プロジェクトです。

高松市は四国の玄関口として発展してきましたが、瀬戸大橋架橋に伴う宇高連絡船の廃止や四国横断自動車道の開通、高松空港の開港など、高松市を取り巻く社会経済環境が変化する中で、高松市の拠点性の低下、とりわけ港頭地区への影響が懸念されることになりました。このため、港頭地区を抜本的に再整備し、新たな拠点を形成するため、昭和 58～59 年度に国が本四架橋に伴う備讃地域整備計画調査を実施したのと並行して、香川県は高松地域（港頭地区）整備計画調査に着手し、新都市再開発計画がスタートしました。

高松港頭地区総合整備事業は、基本コンセプトを「瀬戸の都・高松－21 世紀の城（新玉藻城）づくり」とし、関係機関が協力して新しい都市拠点を創造するための事業を一体的に進めることになりました。香川県と高松市は、関係者間を調整し、円滑に早期に事業を推進するため、基本的に人材も資金も半分ずつ持ち寄って県土木部に「高松港頭地区開発局」を設置し、一元的に事業を進めるシステムを導入しました。

昭和 63 年 4 月に高松港港湾改修事業が事業採択されて以降、基盤整備と上物整備が総合的に進められました。基盤整備では、港湾整備事業により、旧連絡船用の泊地約 10ha を埋立て、2 万トン級の大型旅客船専用岸壁を含めた旅客船埠頭が整備されるとともに、延長約 2km に及ぶプロムナードを含む港湾緑地や港湾関連事業用地が整備されました。また、交通結節点、ウォーターフロントなどの立地条件を生かしながら、新しい都市機能を持った拠点地区の形成を図ることを目的として 27.8ha の区域で土地区画整理事業が行われ、それに併せて都市再生総合整備事業により駅前広場、多目的広場、景観施設などが整備されました。J R 高松駅構内にあった J R 貨物施設は高松市香西・鬼無地区へ移転されました。上物施設としては、高松港旅客ターミナルビル、J R 高松駅、高松シンボルタワー、ホテル、国の合同庁舎などが整備され、駅前広場、多目的広場、高松シンボルタワーには地下駐車場が整備されています。

サンポート高松は、平成 15 年 3 月にグランドオープンしました。サンポート高松は、鉄道や船舶の利用者だけでなく、市民や観光客が買い物や各種イベントに訪れたり、憩いの場を楽しむ、高松の新しい賑わいの拠点となっており、今後さらに発展することが期待されています。

<参考文献：香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史第Ⅱ巻」2004 年、運輸省第三港湾建設局高松港湾空港工事事務所編「サンポート高松港湾再開発事業の記録」2000 年など>

